

MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

研究代表者：金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）

研究要旨

研究 1．自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

本年度は、検査結果通知と受診へのつなぎの WEB システムの構築を行い、外国籍 MSM にも対応可能な仕組み、複数の拠点で配布を展開できる仕様とした。コミュニティセンター akta での検査キットの配布を 2018 年 2 月 26 日より開始し 3 月末までに 97 名の受け取りがあった。また本プログラムが首都圏 MSM への検査行動に影響を与えうるかの評価のためベースライン質問紙調査を 2017 年 12 月に実施し、男性と性交渉経験のある 885 件の回答を得た。HIVcheck の認知は 41.4% であり、今後利用したいと回答したものは 72.0% であった。

研究 2．地方における新たな検査機会の開発 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善

急性感染期での医療機関の早期受診、医療者からの検査勧奨を促進するため、急性感染期を疑う症状をまとめた医療者向けパンフレットを 1000 部作製し配布した。2018 年 3 月に MSM 向けの検査をコミュニティセンター mabui において実施し 22 名の利用があった。

研究 3．地方における新たな検査機会の開発 クリニック・診療所における検査機会の拡大-

岡山県では MSM 向けクリニック検査を夏と冬に実施し、夏のキャンペーンでは 31 名の利用、1 名の HIV 陽性と 4 名の梅毒陽性が判明した。平成 30 年度からの中四国地域での検査の拡大展開のため、香川県や愛媛県と協議を進め協力クリニックを選定した。

研究 4．地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

H27 年 1 月以降に陽性が判明した患者に参加協力を依頼することとなり本年度は、質問紙の作成を行った。

研究 5．よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

全国の CBO と調査方法、質問項目を検討し、よりハイリスクな層を明確化するために、従来の項目に加えインターネット利用に関する項目、TasP、PrEP に関する知識について尋ねる質問項目も加え、新たな質問紙を作成した。中四国、仙台、横浜のゲイ向け商業施設 70 店舗の協力を得て、総計 1,290 部の質問紙を配布し、984 部回収した（回収率 76.3%）

研究分担者

岩橋 恒太

（特定非営利活動法人 akta 理事長）

健山 正男

（琉球大学大学院医学研究科・准教授）

和田 秀穂

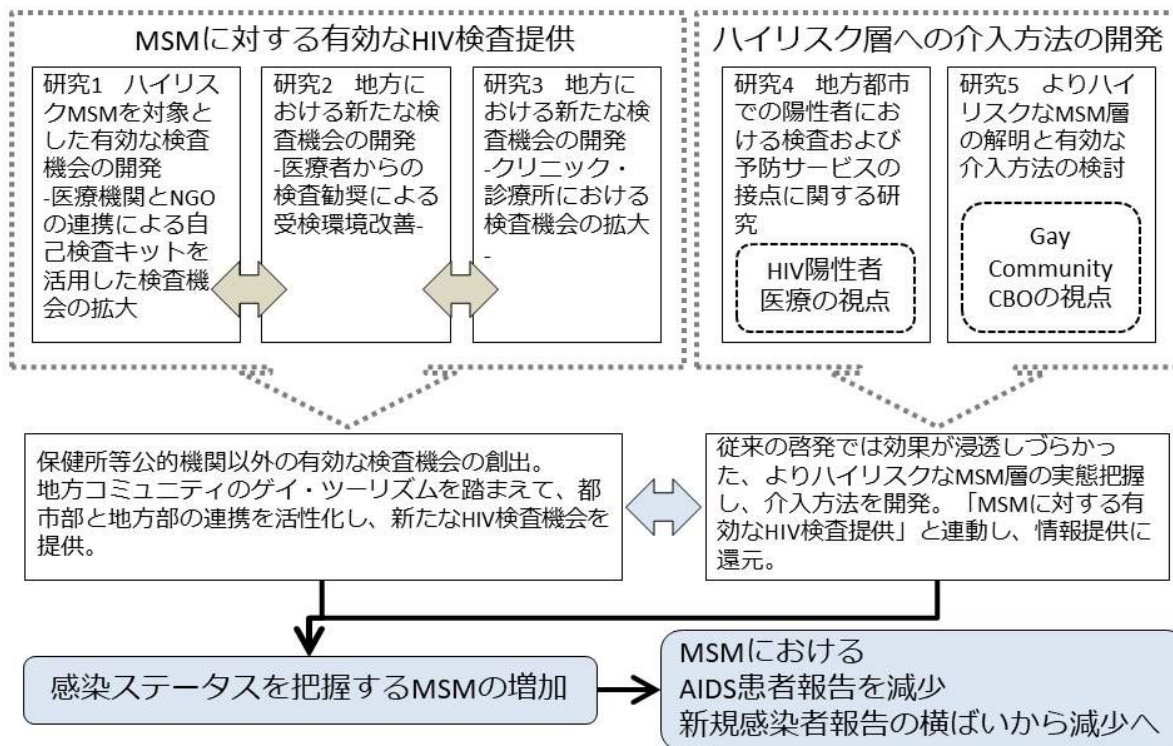
（川崎医科大学血液内科学教授）

塩野 徳史

（大阪青山大学健康科学部看護学科・講師）

背景

- ・感染者の90%が感染ステータスを把握する状況ではない
- ・未受検者や定期的な受検習慣がないMSMに対する介入が必要
- ・よりハイリスクなMSM層を把握し、介入方法を検討することが必要



A. 研究目的

本研究の目的は次の3点である。

1. 医療機関とMSMをサポートするNPO aktaが連携した検査システム「HIVcheck.jp」を活用し、ハイリスクMSM層の検査受検推進を図る。また本検査手法を用いて、受検者のHIV感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施し、ハイリスク群の明確化をはかる。
2. 地方都市で、地域性に配慮した形で公的機関以外の医療機関等を活用したHIV検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避けるMSMへの検査促進を行う。
3. 当事者NGOが協働し、従来の予防介入が届きにくかったハイリスクMSMの実態把握と有効な介入を方法の検討を行う。

B. 研究方法

研究1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

研究分担者 岩橋恒太

医療機関(国立国際医療センター:ACC)とNPOが連携した検査「HIVcheck.jp」を活用して実施する。本検査の流れは下記のとおりである。コミュニティセンターなどMSMコミュニティ内のベニューにてNGOスタッフが対面で検査の流れを説明しキットを配布、自記式質問紙調査への回答を依頼する。同意した受検者は後日自己穿刺血をACCに郵送する。ACCでのスクリーニング検査の結果は、受検者固有のIDとパスワードを専用WEBサイトに入力することで結果ページにアクセスを可能とする。スクリーニング検査で要確認となった場合は、指定の医療機関の予約と受診につなぎ、さらに確定検査で陽性の場合にはHIV専門医療機関を紹介する。専用WEBサイトには検査・相談・医療に関する情報サイトHIVマップ等をリンクし、支援環境を周知する。血清行動疫学分析として、受検者の

検査結果と自記式質問紙調査のデータをリンクして分析する。陽性者の背景分析、有病割合と推定罹患率を算出する。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 医療者からの検査推奨による MSM の検査受 検環境改善

研究分担者 健山正男

沖縄県で HIV 検査が早期かつ適切に提供できる体制を医療、行政、NGO の連携により整備する。先行研究をもとに、医療者向けの HIV の急性感染期を疑う症状をまとめた、早期に適切なタイミングで検査勧奨を行うための簡便なマニュアルを作成する。H29 年度は、医療者向けのマニュアルの作成と配布を行い、那覇市のコミュニティセンターにおいて検査を実施する。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 クリニック・診療所における検査機会の拡大

研究分担者 和田秀穂

岡山県の先行事例をもとに、岡山県の近隣県でも連携した形で、中四国地域における医療機関等を活用した新たな HIV 検査機会を拡大実施を行った。受検者への質問紙調査、行政への検査機関別 HIV/AIDS 報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行うものとする。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サー ビスの接点に関する調査

研究代表者 金子典代

横断型自記式質問紙調査により、拠点病院等に通院する HIV 陽性者を対象に、感染判明前の検査、医療機関の利用、予防啓発との接点を把握し、地方都市での早期検査勧奨の考案、ハイリスク MSM の実態把握と有効な介入の考案に活用する。平成 29 年度は実施医療機関の医療者と実施方法の検討、質問紙の作成

を行う。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有 効な介入方法の検討

研究分担者 塩野徳史

全国の 7 NGO と連携し、横断型自記式質問紙調査を実施する。ミーティングにより調査手法の検討を行い、よりハイリスクな層を意識した質問紙を作成した。調査項目は先行研究と同様の項目を活用し、基本属性、過去 6 ヶ月間の商業施設など利用経験、予防啓発活動の認知、ソーシャル・キャピタル、HIV 抗体検査受検経験、検査の未受検理由、性行動および予防行動とした。またインターネット利用に関する項目、TasP、PrEP に関する知識について尋ねる質問項目も加えた。中四国では 40 店舗のゲイバー、横浜では 20 店舗のゲイバー、仙台では、10 店舗の協力を得て、質問紙を配布する。

(倫理面への配慮)

研究計画については、研究者が所属または外部委託する研究機関において倫理審査を受けて実施する。本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中で中止の自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。

C. 研究結果

研究 1. 自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

検査結果通知と受診へのつなぎの WEB システムの構築を行った。主要な情報は英語でも併記し、外国籍 MSM にも対応可能とし、またコミュニティセンター akta のみならず複数の拠点で配布を展開できる仕様とした。検査

の説明、同意書、質問紙等すべての資料について英語版も作成した。首都圏での配布については、要再検査となった場合、確認検査は総計3医療機関（国立国際医療センター、東新宿こころのクリニック、駒込病院）から選べるシステムとした。研究計画は、名古屋市立大学の倫理審査委員会、検査実施機関の国立国際医療センター倫理委員会より承認を得た。検査キットの配布は2018年2月後半よりコミュニティセンターaktaを起点に98件を配布し、検体を60件を回収した。質問紙と検査結果のリンクについても、98%の利用者から、書面による同意を得て実施することができている。

本研究が首都圏MSMへの検査行動に影響を与えうるかの評価のためベースライン質問紙調査をMSM向け大型クラブイベントに実施した。来場者1,000名に配布し、966部の有効回答を得て、分析を行った。男性と性交渉経験のある885件に限定し、分析を行った結果HIVcheckの認知は41.4%であり、今後利用したいと回答したものは72.0%であった。

研究2. 地方における新たな検査機会の開発 医療者からの検査推奨によるMSMの検査受 検環境改善

急性感染期を疑う症状をまとめた医療者向けパンフレットを作製した。沖縄県内の医療機関にパンフレット1000部を配布した。コミュニティセンターmabuiからも急性感染期の症状をまとめた情報配信を実施し、検査行動促進につなげる活動を展開した。また2018年2月にコミュニティセンターmabuiにおいて、MSM向けの検査提供を行った。

研究3. 地方における新たな検査機会の開発 クリニック・診療所における検査機会の拡 大

2018年度、夏のキャンペーンでは、15名の利用、1名のHIV陽性と4名の梅毒陽性が判

明した。2018年第5弾が終了した時点では、累計で108名の利用、2名のHIV陽性と12名の梅毒陽性が判明している。H30年度からの中四国地域での検査の拡大展開のため、香川県や愛媛県と協議が進行した。特に愛媛県では、2施設の参加クリニックが選定され、キャンペーン開始に向け準備中である。

研究4. 地方都市での陽性者の検査・予防サー ビスの接点に関する調査

協力を得る予定の拠点病院の医師と研究方法を検討した。H27年1月以降に陽性が判明した患者に参加協力を依頼することとした。

本年度は、質問紙の作成を行い名古屋市立大学看護学部の研究倫理審査委員会より実施の承認を得た。

研究5. よりハイリスクなMSM層の解明と有 効な介入方法の検討

中四国地域では7県のゲイバー40店舗から協力を得られ、総計780部の質問紙を配布し、568部回収した（回収率72.8%）。また横浜では20店舗のゲイバーおよびハッテン場から協力を得られ、総計340部の質問紙を配布し、279部回収した（回収率82.1%）。仙台では、10店舗のゲイバーおよび売り専から協力を得られ、総計170部の質問紙を配布し、137部回収した（回収率80.6%）。

総数では、ゲイ向け商業施設70店舗の協力を得て、総計1,290部の質問紙を配布し、984部回収した（回収率76.3%）。

D. 考察

研究1の「HIVcheck.jp」は、WEBシステムの再構築等に予定以上に時間を要したが、H30年2月26日より配布を開始し、研究2および研究3の地方都市での検査拡大については、研究者、NGO、行政の協働により検査、効果評価の体制が進行している。研究5については、本研究に携わる研究チームが構成され、予定

通り実態把握の調査が進行している。実施状況では回収率はおおむね8割と高く、これまでCBOが活動を展開し、商業施設との関係を構築してきたことが影響していると考えられる。本調査の結果によって、エイズ予防指針のもとに実施されてきた従来型の予防介入では、介入が届きづらかった「よりハイリスクなMSM層」の実態が明らかとなり、彼らへの予防介入を検討するうえで重要な資料を得ることが可能となる。また「よりハイリスクなMSM層」への予防介入は、今後の新規HIV感染者数の減少に向けた有効な介入方法の開発と展開につなぐことが期待できる。

1) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

わが国では未達成である「90%の陽性者が自身の感染ステータスを把握する状況」の到達のためにも、self-testingの手法の一つである「HIVcheck.jp」がMSMコミュニティにて浸透しうるかを検証する試みは社会的にも意義が高い。地方都市では、急性感染期の医療機関の早期受診の促進、医療者からの適切な時期に検査勧奨を行うことはきわめて重要である。医療とコミュニティが協働し、医療者、MSMコミュニティ双方に働きかける社会的意義は大きい。NGO、行政、医療の連携による民間クリニックを活用したMSMへのHIV検査の事業化に成功したモデル事例を周辺県にも拡大させることは、他の地方都市にもモデルになりうる。従来の商業施設ベース型の介入が届きにくかったハイリスクMSMの実態把握や介入開発は日本では未実施であり社会的意義は高い。

今後の展望について、本研究の成果により、新たな検査の手法の事業化やMSM向けの検査機会拡大、全国での地方都市の検査体制の整備、介入の展開につないでいくことが期待される。

E. 結論

次年度以降は、「HIVcheck.jp」において検査キットの配布を本格展開し、質問紙調査の解析を進める。また地方都市でも公的機関以外の検査による検査促進を進めMSMへの検査機会の拡大を目指す。またハイリスクMSMの実態把握のための調査を実施し、介入へとつなげる。

F. 健康危険情報

なし

G. 発表論文等

研究代表者

金子典代

論文発表

○1) 塩野徳史,市川誠一,金子典代,佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性, 厚生 の 指 標 , 印 刷 中 .

2) Kaori Nagai, Akiko M. Saito, Toshiki I. Saito, Noriyo Kaneko: Reporting quality of randomized controlled trials in patients with HIV on antiretroviral therapy: a systematic review. *Trials*, Dec 28;18(1):625.DOI 10.1186/s13063-017-2360-2

3) Kang KA, Kim SJ, Kaneko N : Factors influencing behavioral intention to undergo Papanicolaou testing in early adulthood: Comparison of Japanese and Korean women. *Nurs Health Sci.* 2017 Dec;19(4):475-484.

4) 寺尾亮平, 金子典代, 樋口倫代: 養護教諭における中学生・高校生からのネット上のいじめの相談を受けた経験とその関連要因. *学校保健研究*, 2017, 9(4): 288-294.

5) Kang, Kyung-Ah & Kim, Shing-Jeong & Noriyo, Kaneko & Cho, Haeryun & Lim, Young-Sook. (2017). A Prediction of Behavioral Intention on Pap Screening

Test in College Women: A Path Model.
Journal of Korean Public Health Nursing.
31. 135-148. 10. 5932 / JKPHN.
2017.31.1.135.

学会発表(国内)

- 1) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko, Michiyo Higuchi : Survey of school nurses ' experiences providing counseling on sexual orientation to junior and senior high school students in Japan , The 49th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference , Korea , 2017.
- 2) Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaakkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi : Studies on NGOs ' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 , 東京 , 2017.
- 3) 高久道子 ,市川誠一 ,金子典代 ,岩木エリーザ : 多言語インターネット調査システムの開発と MSM を含む外国国籍者を対象とする調査 , 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 , 東京 , 2017.
- 4) 木南拓也 , 本間隆之 , 岩橋恒太 , 荒木順子 , 佐久間久弘 , 大島岳 , 金子典代 , 市川誠一 : コミュニティセンターakta を起点とするアウトリーチ活動の効果評価 , 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 , 東京 , 2017.
- 5) 荒木順子 , 金子典代 , 木南拓也 , 岩橋恒太 , 佐久間久弘 , 阿部甚平 , 大島岳 , 太田貴 , 石田敏彦 , 塩野徳史 , 新山賢 , 金城健 , 本間隆之 , 市川誠一 : akta で展開したセーフアセックスキャンペーンとコミュニティベースド調査による効果評価 , 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 , 東京 , 2017.

研究分担者

岩橋恒太

学会発表(国内)

- 1) ○木南拓也 , 本間隆之 , 岩橋恒太 , 荒木順子 , 佐久間久弘 , 大島 岳 , 金子典代 , 市川誠一 コミュニティセンター akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京 , H29.11.24-26
- 2) ○荒木順子 , 金子典代 , 木南拓也 , 岩橋恒太 , 佐久間久弘 , 阿部甚兵 , 大島 岳 , 太田 貴 , 石田敏彦 , 塩野徳史 , 新山 賢 , 金城 健 , 本間隆之 , 市川誠一 akta で展開したセーフアセックスキャンペーンとコミュニティベースド調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京 , H29.11.24-26
- 3) 岩橋恒太 , 生島 嗣 , 藤田彩子 , 市川誠一 , 白阪琢磨 MSM を対象とした献血に関する情報伝達方法および意識調査 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京 , H29.11.24-26
- 4) 本間隆之 , 木南拓也 , 岩橋恒太 , 柴田 恵 , 荒木順子 , 佐久間久弘 , 阿部甚兵 , 大島 岳 , 市川 誠 一 Community-Based Organization によるアウトリーチ活動のプログラム評価ーロジックモデルを用いたプロセス評価ー 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京 , H29.11.24-26
- 5) 岩橋恒太 , 本間隆之 , 堅多敦子 , 貞升健志 , 長島真美 , 清古愛弓 , 生島 嗣 , 岳中美江 , 市川誠一 , 今村顕史 東京東部地域における MSM 向け HIV 検査・相談会「快速あんしん検査上野駅」の啓発の構成 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京 , H29.11.24-26
- 6) 本間隆之 , 岩橋恒太 , 堅多敦子 , 貞升健志 , 長島真美 , 清古愛弓 , 生島 嗣 , 市川誠

一, 今村顕史 HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅」の実施 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 7) 高野 操, 岩橋恒太, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 生島 嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 中山保世, 小日向弘雄, 友成喜代美, 土屋亮人, 杉野祐子, 小形幹子, 上村 悠, 柳川泰昭, 水島大輔, 青木孝弘, 市川誠一, 菊池 嘉 MSM を対象とした自己穿刺血による HIV 検査 HIV Check 受検者の有病率 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

塩野徳史 論文発表

- 1) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所における HIV 抗体検査受検者の特性, 厚生 の 指 標, 印 刷 中 .

学会発表(国内)

- 1) 塩野徳史 ゲイコミュニティにおける HIV 抗体検査 『これまで』と『これから』シンポジウム 3 HIV 将来予測と流行阻止 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 2) 塩野徳史 HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム 4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 3) 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 4) 荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田 貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展

開したセーファーセックスキャンペーンとコミュニティベースド調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 5) 宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSM における性交相手との出会いの場所と方法一年齢層による差異についてー 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 6) 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンター dista 利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 7) 後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 8) 川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 9) Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjants Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, Nov. 24-26, 2017

- 10) 櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉セ

ンターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価 ワークショップ3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

健山正男 論文発表

- 1) Ogawa S, Hachiya A, Hosaka M, Matsuda M, Ode H, Shigemi U, Okazaki R, Sadamasu K, Nagashima M, Toyokawa T, Tateyama M, Tanaka Y, Sugiura W, Yokomaku Y, Iwatani Y. A Novel Drug-Resistant HIV-1 Circulating Recombinant Form CRF76_01B Identified by Near Full-Length Genome Analysis. *AIDS Res Hum Retroviruses*, 32, 3, 284-289, 2016
- 2) Arae H, Tateyama M, Nakamura H, Tasato D, Kami K, Miyagi K, Maeda S, Uehara H, Moromi M, Nakamura K, Fujita J. Evaluation of the Lipid Concentrations after Switching from Antiretroviral Drug Tenofovir Disoproxil Fumarate/Emtricitabine to Abacavir Sulfate/Lamivudine in Virologically-suppressed Human Immunodeficiency Virus-infected Patients. *Intern Med* 55 23 3435-3440 20162.

学会発表(国内)

- 1) 健山正男, 上 薫, 仲村秀太, 宮城一也, 金城武士, 鍋谷大二郎, 原永修作, 藤田次郎, HIV 関連神経認知障害の病態と診断, 第 87 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 5 シンポジウム, 長崎市, 2017.10.27.
- 2) 兼久 梢, 健山正男, 喜友名朋, 新里 彰, 新垣若子, 鍋谷大二郎, 原永修作, 屋良さとみ, 藤田次郎 cART 未導入、HIV 感染血友病患者における透析導入の一例, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京, 2017.11.25.

○3) 健山正男, HIV 陽性患者アンケート解析から見た HIV 検査における課題, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会, 5. シンポジウム, 東京 2017.11.25.

- 4) 椎野禎一郎, 健山正男, 石原美紀, 南 留美, 蜂谷敦子, 横幕能行, 吉田 繁, 近藤真規子, 貞升健志, 古賀道子, 森 治代, 杉浦 互, 吉村和久, 国内伝播クラスタの検索プログラムの開発: 未知の塩基配列の所属する伝播クラスタの解析力の検証, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会, ワークショップ, 東京, 2017.11.26.
- 5) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 當山国江, 石郷岡美穂, 友利晃子, 諸見牧子, 上原 仁, 大城市子, 辺土名優美子, 上 薫, 石原美紀, 島袋奈津紀, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次郎, 沖縄県内訪問看護ステーションの職員が抱く HIV/AIDS 患者の受け入れに関する現状調査 - 第一報 -, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会, 一般口演, 東京, 2017.11.24.
- 6) 前田サオリ, 宮城京子, 健山正男, 諸見牧子, 上原 仁, 石郷岡美穂, 大城市子, 辺土名優美子, 本永久美子, 大嶺千代美, 藤田次郎, 緊急入院・緊急透析となった患者の意思決定支援, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会, 一般口演, 東京 2017.11.24.
- 7) 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 湯永博之, 渡邊 大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南 留美, 吉田 繁, 小島洋子, 森 治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 豊嶋崇徳, 佐々木 悟, 伊藤俊広, 猪狩英俊, 寒川 整, 石ヶ坪良明, 太田康男, 山元泰之, 古賀道子, 林田庸総, 岡慎一, 松田昌和, 重見 麗, 濱野章子, 横幕能行, 渡邊珠代, 藤井輝久, 高田清式, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 岩谷靖雅, 吉村和久, 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会, 一般口演, 東京, 2017.11.25.

和田秀穂

学会発表(国内)

- 1)和田秀穂, 岡山県でのクリニック検査の事業化の取り組み シンポジウム 5 地方都市における HIV 検査アクセスの向上, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会, H29.11.24-26, 東京
- 2) 和田秀穂, 臨床医から見た HIV 検査の普及に向けた検査方法選択と今後の課題 ランチョンセミナー6 HIV 検査の現状と展望, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, H29.11.24-26, 東京
- 3) 松井綾香, 野村直幸, 坂田達朗, 齊藤誠司, 和田秀穂, 板野亨, 相良義弘 当院における HIV 感染者の合併症と併用薬の使用状況からかかりつけ医の必要性を考える, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, H29.11.24-26, 東京
- 4) 飯塚暁子, 藤原千尋, 村上由佳, 門田悦子, 松井綾香, 野村直幸, 木梨貴博, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 歯科衛生士学生への HIV 診療チームによる HIV/AIDS 啓発教育の効果-HIV/AIDS に関する講義の聴講前後の調査を通じて-, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, H29.11.24-26, 東京
- 5) 安井晴之進, 徳永博俊, 竹内麻子, 廣瀬匡, 山内佑, 西村広健, 杉原尚, 和田秀穂 長期間未治療の HIV 感染者にみられた二次性膜性増殖性糸球体腎炎の 1 例, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, H29.11.24-26, 東京
- 6) 村上由佳, 藤原千尋, 木梨貴博, 飯塚暁子, 野村直幸, 松井綾香, 齊藤誠司, 坂田達朗, 和田秀穂 福山医療センターにおける HIV 感染者の歯科受診状況と歯科未受診患者への支援, 第 31 回日本エイズ学会学術集会, H29.11.24-26, 東京

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし